

「はだかの心根」

喜多不二夫

この前妙にはつきりした夢を見ました。

私がまだ元気に働いていた頃の夢でした。

忘れない為にこの場を借りて書き留めておきたいと思いません。

大学時代、私は教師を志していました。しかし、得なく才なく全ての採用試験に落ちてしまいました。それだけを目標にしていたので私はやりがいを使い、自分が何をしたいのかわからなくなりました。そうこうするうちに大学を卒業してしまいました。

卒業後、私は何をやる訳でもなく目標を失ったまま漠然とした日々を送っていました。

卒業後、半年ぐらい過ぎた頃、大学にふらっと行って何気なくアルバイトの求人を見ました。そこには偶然「重症心身障害児施設。。。職員募集」とありました。私は大学時代ボランティア研究会に所属していたので多少福祉の知識がありました。何

気に見つけたその求人にもあ、福祉だし何にもしないよりマシか、と思ったので軽い気持ちで応募することにしました。

しかしこの「重症心身障害児施設〇〇〇」がその後の私の運命を変えることになるとはこの時思ってもいませんでした。

面接をしてもらい、数日後出勤しました。するとそこは日本で最重度の障害を持った人の施設でした。私は大学時代少しかかりかじった程度だったので具体的な介護の仕方なんてわかりませんでした。オムツ交換、食事介助、姿勢の取り方、入浴介助などなど。全て未経験の世界でした。

私は途方にくれました。これは持たない、とてもできないしかし私はまあ、嫌になったら辞めたらいい、どうせ長続きしないだろうからやるだけやってみるか、と思いとりあえず言われた事をやってそれでもできないなら逃げたらいいと軽い気持ちでいました。

言われた事を機械的にやり、できないことから逃げ淡々と仕事をしていました。

ところがだんだんと言われたこと以外の仕事が回ってくるようになりました。逃げるに逃げれない状況になっていきまし

た。オムツ交換、食事介助、入浴介助など逃げてきた仕事が否応なく回ってきました。

ところが人間不思議なもので技術がないにもかかわらず、だんだんコツをつかみ下手くそながらもできるようになりました。そのうち食事介助や入浴介助など何とかできるようになっていきました。

この施設は脳性マヒのため体が異常に変形したり、自発呼吸ができなくて気管切開をしたり、口から食事が摂取できないので鼻にチューブを入れて胃の中に直接流動食を入れたり、姿勢をきちんと取らないとたちまち誤嚥をしたり、血中の酸素濃度が一定に保てずモニターをつけたり、てんかんの発作、それも大発作を起こして一時間違ったり対応が遅れると死に直結する、常に死と隣り合わせで何とか生きている人たちばかりでした。

機械的に言われたことをこなしていると素人でもそれなりの技術が身に付き、何とかできるようになりました。だんだん最重度の人たちの介助を任せられるようになり、私は何とかできるんじゃないか、と自信のようなものが出てきました。他

の職員とも仲良くなり、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士のリハビリスタッフにもいろいろ教えを受け、議論を交わすようになりました。私は次第にやりがいを感じるようになりました。

最重度の人たちの入浴介助や食事介助、オムツ交換など自分から率先してできるようになりました。その他雑用もこなしていくようになりました。

私の中に自信とプライドが生まれ、自分はこの施設に必要な存在と思うようになりました。実際、新人職員の指導、実習生の指導など任せられるようになりました。同時に血圧の測り方、気管切開をしている人の痰の吸引、血中濃度が保てない人の対応の仕方など看護師顔負けの仕事もするようになりました。

私は明らかに自信を深めました。ここまでできればどこへ行っても通用すると思いはじめました。施設の福祉に対する考え方など共感することも多く、私の中で福祉に対する考え方もはっきりしてきました。

しかし所詮素人。介護の勉強をしたわけでもなく、技術も実践の中で身につけたもの。叩き上げで育った私の体は限界に達しつつありました。この職業に付き物の職業病、腰痛に苦しめられるようになりました。病院に行きましたら診断は腰椎椎間板ヘルニア、坐骨神経痛でした。それでも私は騙し騙し仕事を続けていました。しかし次第に他の職員に迷惑をかけるようになりました。

この仕事に自信とプライドを持っていた私でしたがここにきて自分の限界をさとり、ついに退職を決意しました。六年半の施設での生活でした。